

インフルエンザ治療薬の主な特徴

製品名	投与経路	用法・用量			
リレンザ®	吸入	1回 10mg (5mg プリスターを2プリスター) を 1日2回, 5日間吸入			吸入粉末剤 成人及び10歳以上の小児 単回投与の場合2容器 2日間投与の場合1回あたり1容器
タミフル® オセルタミビル® 75mg カプセル 3%ドライシロップ	経口	<u>成人及び体重37.5kg以上の小児</u> 1回 75mg を1日2回, 5日間経口投与 <u>幼小児</u> 2mg/kg (ドライシロップ剤として66.7mg/kg) を 1日2回, 5日間, 用時懸濁して経口投与 <u>新生児, 乳児</u> 3mg/kg (ドライシロップ剤として100mg/kg) を 1日2回, 5日間, 用時懸濁して経口投与	イナビル® 20mg 吸入粉末剤 160mg 吸入懸濁用	吸入	<u>10歳未満の小児</u> 1容器 吸入懸濁用 160mg を生理食塩水 2mL で懸濁し, ネブライザーを用いて単回吸入
ラピアクタ® 300mg バッグ	点滴静注	<u>成人</u> 300mg を15分以上かけて単回点滴静注 重症化するおそれのある場合は, 1日1回 600mg を 15分以上かけて点滴静注, 症状に応じて連日反復投与 <u>小児</u> 10mg/kg を15分以上かけて単回点滴静注 症状に応じて連日反復投与 投与量の上限は1回量 600mg まで	ゾフルーザ® 10mg 錠 20mg 錠 2%顆粒	経口	<u>成人及び12歳以上の小児</u> 20mg 錠2錠または顆粒4包を単回経口投与 体重80kg以上の患者には, 20mg 錠4錠または顆粒8包を単回経口投与 <u>12歳未満の小児</u> ・体重40kg以上 20mg 錠2錠または顆粒4包を単回経口投与 ・体重20kg以上40kg未満 20mg 錠1錠または顆粒2包を単回経口投与 ・10kg以上20kg未満 10mg 錠1錠を単回経口投与

※ゾフルーザ以外の4剤は、NA阻害剤に分類される。

引用：日本感染症学会 ～抗インフルエンザ薬の使用について～

インフルエンザ治療薬の小児への使用

	オセルタミビル ※タミフル	ザナミビル ※リレンザ	ラニナミビル ※イナビル ***	ペラミビル ※ラピアクタ	パロキサビル マルボキシル
新生児・乳児(1歳未満)	推奨*	推奨されない		左記3剤の使用が困難な時に考慮する。	※ゾフルーザ
幼児(1歳から4歳)	推奨	吸入困難と考える			推奨については本文を参照
小児(5歳から9歳)	推奨	吸入が出来ると判断された場合に限る			
10歳以上**	推奨	推奨			
呼吸器症状が強い・呼吸器疾患のある場合	推奨	要注意			

インフルエンザ治療薬への耐性株

- 近年、インフルエンザ治療薬への耐性株出現が問題になっている。
- 以下、IASRでの報告まとめ（2022/23シーズン株の解析）
 - ①NA阻害剤⇒H1N1pdm09・H3N2・B型ウイルスで耐性無
 - ②バロキサビル⇒H3N2において国内株303株のうち10株が耐性有
- 感染研ホームページに、「抗インフルエンザ薬耐性株サーベイランス」が公開されており、日本で最初に承認されたインフルエンザ治療薬のアマンタジンは直近では耐性率が100%であるなどの情報も掲載。

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/influ-resist.html>

インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動に係る全国的な動向調査研究

健感発1111第1号
薬生安発1111第1号
令3年11月11日

各〔都道府県
保健所設置市
特別区〕衛生主管部（局）長 殿

厚生労働省健康局結核感染症課長
（公印省略）

厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課長
（公印省略）

インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動に係る
全国的な動向調査研究に対する協力について（依頼）

標記について、昨年度に引き続き、令和3年度日本医療研究開発機構委託研究開発費（医薬品等規制調和・評価研究事業）において、下記の研究が行われています。

当該研究の実施にあたり、別紙によりインフルエンザ定点のほか約6万9千箇所の主に内科・小児科・救急告示医療機関に研究班から調査へ協力依頼をさせていただきます。本年度は、昨年度同様、異常行動に加え、出血についても調査対象としております。貴職におかれましては、内容を御了知いただくとともに、貴管内医療機関等へ周知いただきますようお願いいたします。

なお、本件については、別添写しのとおり、医療関係団体の長へ協力をお願いしておりますことを申し上げます。

記

研究名：インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動に係る全国的な動向調査研究
（令和3年度日本医療研究開発機構委託研究開発費（医薬品等規制調和・評価研究事業）実施課題）

研究代表者：川崎市健康安全研究所所長 岡部 信彦

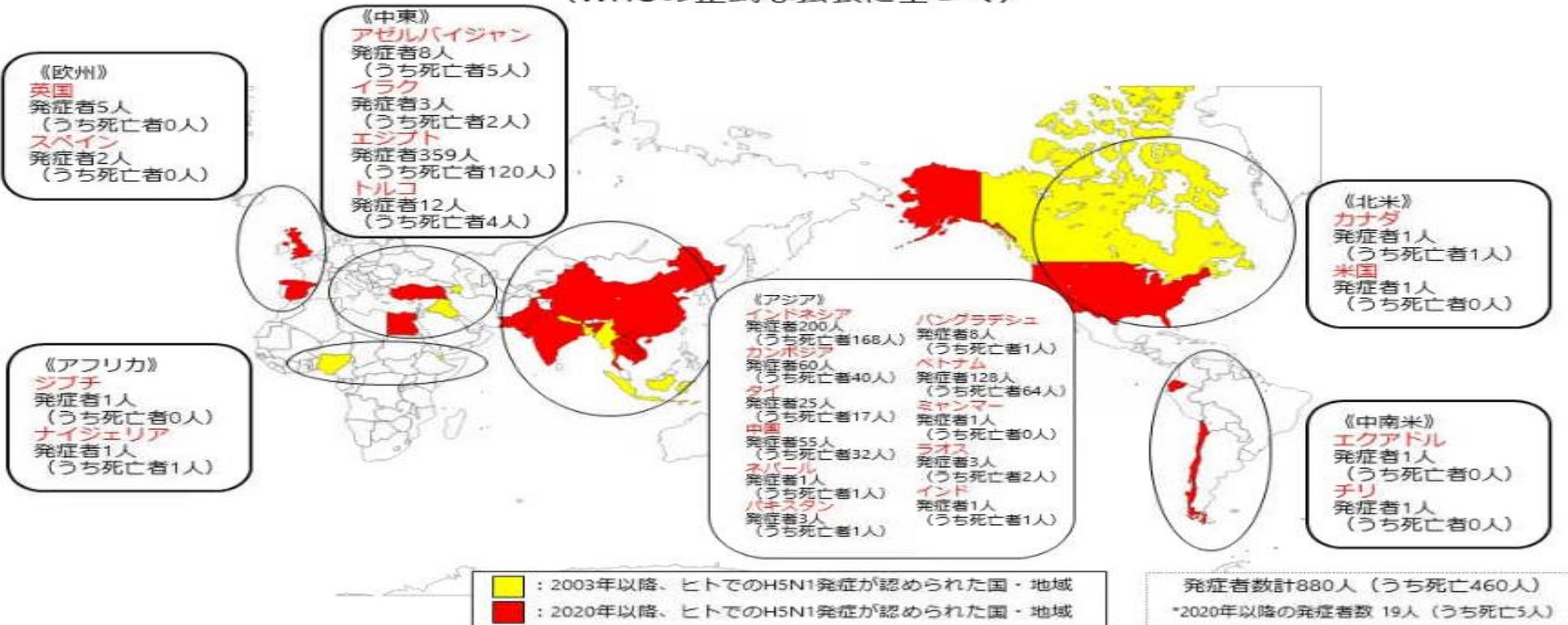
鳥インフルエンザ（H5N1）の疫学パラメータ

- 病原体：野鳥の間で流行するインフルエンザA型
- 潜伏期間：概ね2-8日
- 感染経路：ウイルスを保有する鳥への接触や、稀であるがヒトヒト感染が起きる。ただし、持続的なヒトヒト感染は起きていない。
- 歴史：1997年香港で最初にヒト感染事例が報告された（18人発症、うち6人死亡）。2015年にエジプトで136人/年という最大規模の発生。
- 症状：初発症状はインフルエンザと類似。多くの例で肺炎を合併し、胸部X線で浸潤影やすりガラス状陰影を認め、急速に悪化し急性呼吸窮迫症候群（ARDS）となる。
- 予後：致死率は53%と極めて高い。発症から平均9-10日（範囲6～30日）目に進行性の呼吸不全により死亡することが多い。

鳥インフルエンザ（H5N1）の発生地域

鳥インフルエンザA（H5N1）発生国・地域及びヒトでの確定症例（2003年11月以降）

（WHOの正式な公表に基づく）



鳥インフルエンザ（H7N9）の疫学パラメータ

- 病原体：野鳥の間で流行するインフルエンザA型
- 潜伏期間：概ね1-10日（多くは2-5日）
- 感染経路：ウイルスを保有する鳥への接触や、稀であるがヒトヒト感染が起きる。ただし、持続的なヒトヒト感染は起きていない。
- 歴史：2013年3月に中国で初めて確認された。症例のほぼ全ては中国からの報告であり、中国以外からの報告例も中国への渡航歴がある。
- 症状：初発症状はインフルエンザと類似。多くの例で肺炎を合併し、胸部X線で浸潤影やすりガラス状陰影を認め、急速に悪化し急性呼吸窮迫症候群（ARDS）となる。
- 予後：致死率は39%と極めて高い。発症から死亡までの中央値は11日であり、進行性の呼吸不全等による死亡が多い。

鳥インフルエンザ（H5N1）の発生地域

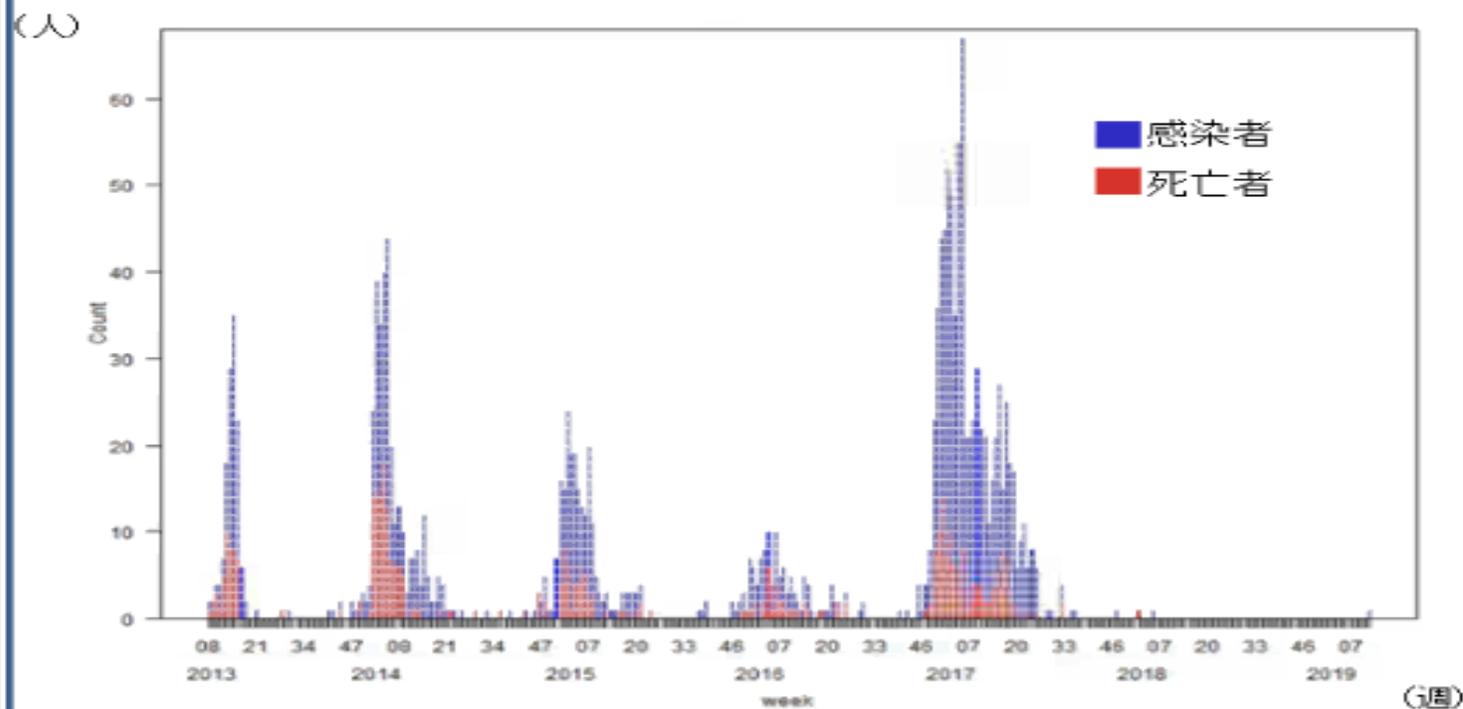
鳥インフルエンザA(H7N9)の発生状況（2013年3月以降）

これまでのWHOからの発表によると、2013年3月以降、ヒト感染患者は1568名（うち、少なくとも616名死亡）。発生地域は中国（4市19省4自治区）、香港特別区、マカオ特別区で、輸入症例は台湾、マレーシア、カナダにて報告がある。

感染者発生地域



発症週別の感染者・死亡者数



感染者数：中国（香港及びマカオを含む）1560名、台湾5名（輸入症例）、マレーシア1名（輸入症例）、カナダ2名（輸入症例）

※ WHO発表より（2022年5月6日報告）

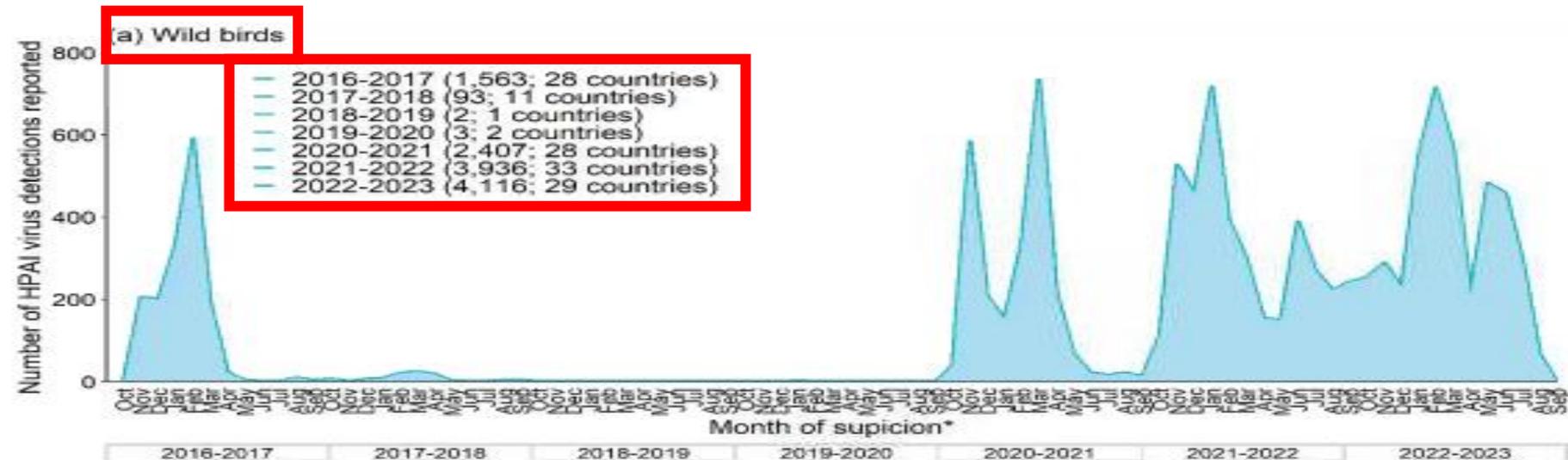
引用：厚労省 鳥インフルエンザA（H7N9）について

鳥インフルエンザの国内における発生について

- 毎年、国内で野鳥や家きんから高病原性鳥インフルエンザが検出されており、各都道府県で殺処分等の対応にあたっている。
- 直近の発生事例は下記の通り

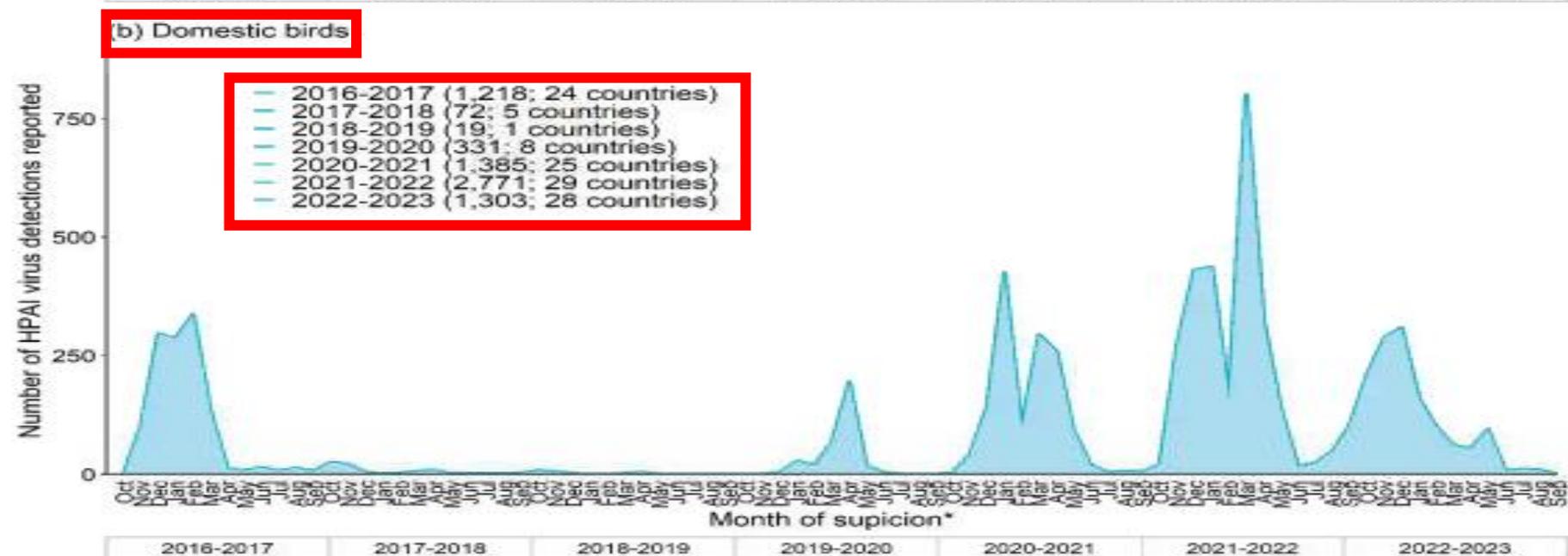
令和5年度(12/8時点)	家きん…4事例 (岡山0事例)	野鳥…52事例 (岡山2事例)
令和4年度	家きん…84事例 (岡山4事例)	野鳥…242事例 (岡山2事例)
令和3年度	家きん…25事例 (岡山0事例)	野鳥…107事例 (岡山0事例)
令和2年度	家きん…52事例 (岡山1事例)	野鳥…58事例 (岡山1事例)

鳥インフルエンザの国外における発生について



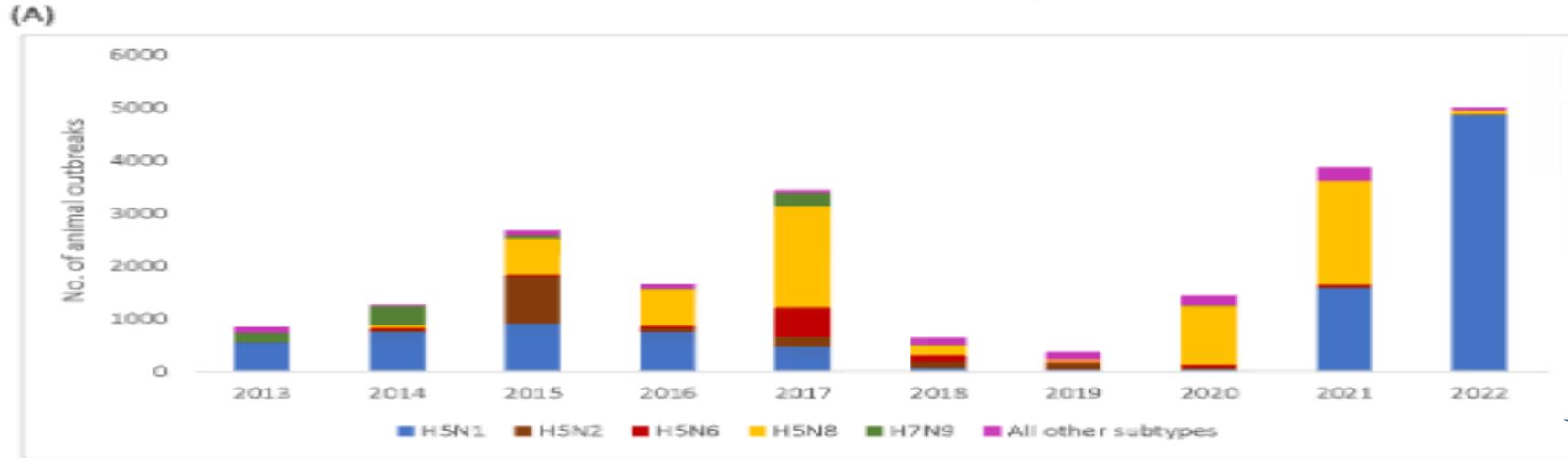
⇐野鳥での発生動向

2020年以降、ヨーロッパの野鳥での高病原性鳥インフルエンザ検出が増えている。



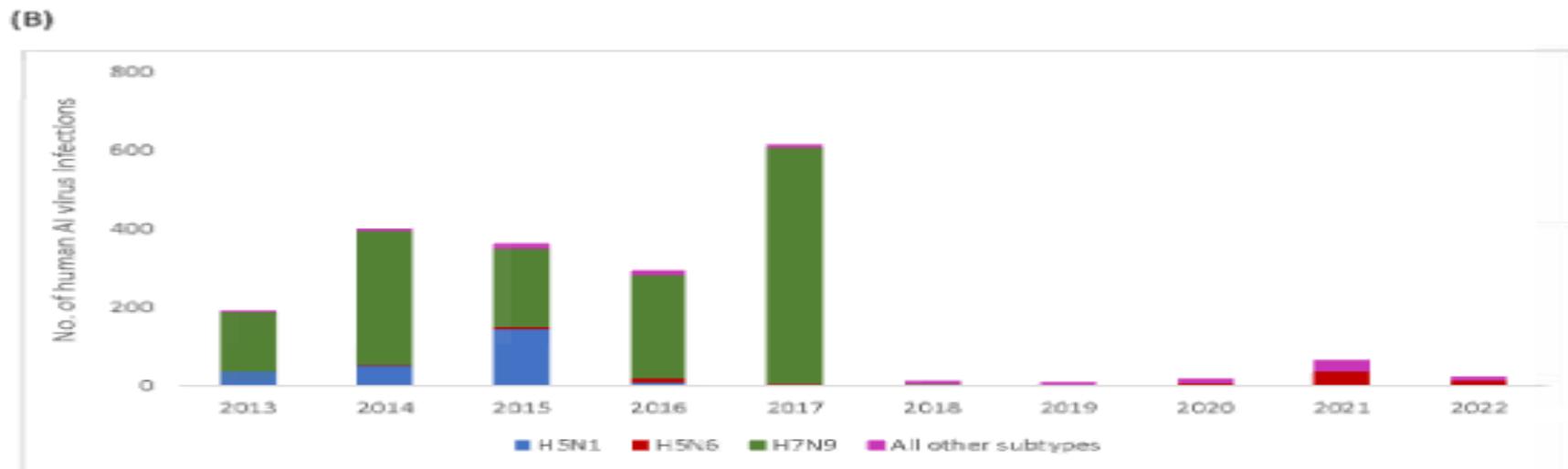
⇐家きんでの発生動向

鳥インフルエンザの国外における発生について



⇐動物での発生及び
検出されたHA・NA型

2021年以降、世界の動物からH5N1検出が増えているが、ヒトへの感染は低調。



⇐ヒトへの感染及び
検出されたHA・NA型

Figure 1. Global animal outbreaks (A) and human infections (B) with avian influenza (AI) virus by subtype, January 2013-June 2022.

鳥インフルエンザの国外における発生について



Health Topics ▾

Countries ▾

Newsroom ▾

Emer

Home / Disease Outbreak News / Item / Avian Influenza A (H5N1) - Cambodia

Disease Outbreak News

Avian Influenza A (H5N1) - Cambodia

29 November 2023

当該事例はECDCの「Communicable Disease Threats Report : Week 48, 26 - 2 December 2023」及び厚労省検疫所（FORTH）の到着情報（12/6）にも取り上げられている。

直近のヒト感染は11/29にWHOより報告のカンボジアでの2例（同じ村）

- ・ 21歳女性⇒ICUへ入院するも死亡
- ・ 4歳女兒⇒ICUで入院加療中

21歳女性のH5N1確定により、村内でサーベイランスを強化しており、4歳女兒は発症から2日後にはタミフル治療およびICUへの入院ができた。

鳥インフルエンザについてのまとめ

- 厚労省によると、現時点で国内のヒト感染例は確認されていない。
- IASRでの報告によると、令和4年度の84事例の解析を行った結果、哺乳類への感染性に関与する代表的な推定アミノ酸配列には変異が認められないことから、これらのウイルスがヒトに直接感染する可能性は低いと考えられている。
- 世界ではA/H5亜型の高病原性鳥インフルエンザの検出が増加しており、欧米では地域の野鳥や野生哺乳類から季節を問わずに検出される報告もあるが、ヒトへの感染事例は相関的に増えてはいない。ただし、カンボジアのような例もあり、国内への侵入に警戒は必要。